

表2 関節可動域測定法(別法)

	関節・部位	運動	記号	基本軸(基準)	移動軸(測定)	軸心	背臥位	側臥位	腹臥位	座位	立位	測定面	注意点	参照
別法1	肩甲帯	挙上(角度)	shg-ELEV-01	胸骨上縁と剣状突起を結ぶ線	胸鎖関節と肩峰を結ぶ線	軸の交点	○	-	-	◎	○	前額面	前面から測定する。体幹の側屈を止める。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	
別法2	肩甲帯	挙上(距離)	shg-ELEV-02	座面	肩甲骨下角部までの垂直距離	なし	-	-	-	◎	○	前額面	上腕は体側に垂らす。基準時と計測時の値から可動範囲を記録する。数回測定し、ばらつきがないことを確認する。	
別法1	肩甲帯	下制(角度)	shg-DEP-01	胸骨上縁と剣状突起を結ぶ線	胸鎖関節と肩峰を結ぶ線	軸の交点	○	-	-	◎	○	前額面	前面から測定する。体幹の側屈を止める。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	
別法2	肩甲帯	下制(距離)	shg-DEP-02	座面	肩甲骨下角部までの垂直距離	なし	-	-	-	◎	○	-	上腕は体側に垂らす。基準時と計測時の値から可動範囲を記録する。数回測定し、ばらつきがないことを確認する。	
別法1	肩甲帯	屈曲(角度)	shg-FLEX-01	両側の胸鎖関節を結ぶ線	測定側の胸鎖関節と肩峰を結んだ線	軸の交点	-	-	-	◎	-	水平面	前面から測定する。上肢下垂位とし、両側の肩甲帯を同時に屈曲してもらい測定する。角度は基準時と測定時の値から可動範囲を計測する。	
別法2	肩甲帯	屈曲(距離)	shg-FLEX-02	脊柱棘突起	肩甲骨内側縁(棘突起基部)	なし	-	-	-	◎	○	-	上腕は体側に垂らす。肩甲骨椎骨線中点と脊柱の垂直距離を計測する。基準時と測定時の値から可動範囲を計測する。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989)
別法1	肩甲帯	伸展(角度)	shg-EXT-01	両側の胸鎖関節を結ぶ線	測定側の胸鎖関節と肩峰を結んだ線	軸の交点	-	-	-	◎	-	水平面	前面から測定する。再度は基準時と測定時の値から可動範囲を計測する。小さいゴニオメーターを使用する。肩甲帯屈曲の可動性が大きく軟部組織にぶつかり測定できない場合は旧法を選択し、備考欄に記述する。	
別法2	肩甲帯	伸展(距離)	shg-EXT-02	脊柱棘突起	肩甲骨内側縁(棘突起基部)	なし	-	-	-	◎	○	-	上腕は体側に垂らす。肩甲骨椎骨線中点と脊柱の垂直距離を計測する。基準時と測定時の値から可動範囲を計測する。筋などの影響で測定しづらい際は投影距離を測定する。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989)
別法	肩	屈曲(前方挙上)	shj-FLEX-01	中腋窩線	上腕骨長軸	軸の交点	◎	-	-	○	○	矢状面	前腕中間位。体幹を固定し肩甲骨を含む角度。矢状面上で測定する。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), 日整会・日本リハ医学会(1995), Delbarre(2008), Norkin&White(2009)
別法	肩	伸展	shj-EXT-01	中腋窩線	上腕骨長軸	軸の交点	○	○	◎	○	-	矢状面	肘軽度屈曲位。前腕中間位。体幹を固定し肩甲骨を含む角度。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), 日整会・日本リハ医学会(1995), Delbarre(2008), Norkin&White(2009)
別法	肩	外転	shj-ABD-01	胸骨上縁と剣状突起を結ぶ線と平行な線	上腕骨長軸	軸の交点	◎	-	-	○	-	前額面	前面からの測定。肘伸展, 前腕外位。体幹を固定し, 肩甲骨を含む角度。	Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009)
別法1	肩	内転	shj-add-01	胸骨上縁と剣状突起を結ぶ線と平行な線を測定面に投影した線	上腕骨の中心線(肩峰前縁と外側上顆)	軸の交点	◎	-	-	○	○	前額面に対して20~40°傾く運動面	前面からの測定。肘伸展, 体幹を固定し, 肩甲骨を含む角度。肩を屈曲20~45°で, 運動面に平行な角度。	Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), 日整会・日本リハ医学会(1995), Delbarre(2008)
別法2	肩	内転	shj-add-02	胸骨上縁と剣状突起を結ぶ線と平行な線	上腕骨長軸	軸の交点	◎	-	-	○	○	前額面	前面からの測定。肘伸展, 体幹を固定し, 肩甲骨を含む角度。	Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), Delbarre(2008), Norkin&White(2009)
別法1	肩	外旋	shj-ER-01	胸鎖関節を結んだ線に対する垂直線	尺骨(肘頭と尺骨茎状突起)	肘頭	◎	○	-	○	-	水平面	上腕を体幹に接して肘関節を前方90°に屈曲した肢位, 前腕中間位。肩甲骨を固定する。	Gerhardt&Rippstein(1990), 日整会・日本リハ医学会(1995), Delbarre(2008)
別法2	肩	外旋(外転位)	shj-ER-02	中腋窩線に対する垂直線	尺骨(肘頭と尺骨茎状突起)	肘頭	◎	-	-	○	○	矢状面	肩外転90°肘90°屈曲位, 前腕内位。肩の内外転がおこらぬように注意。肩甲骨の動きを含む角度。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), Delbarre(2008), Norkin&White(2009), 日整会・日本リハ医学会(1995)
別法3	肩	外旋(第3肢位)	shj-ER-03	両側の胸鎖関節を結ぶ線と平行な線	尺骨(肘頭と尺骨茎状突起)	肘頭	◎	-	-	○	○	前額面	肩屈曲90°肘90°屈曲位, 前腕中間位。	
別法1	肩	内旋(外転位)	shj-IR-01	中腋窩線に対する垂直線	尺骨(肘頭と尺骨茎状突起)	肘頭	◎	-	-	○	○	矢状面	肩外転90°肘90°屈曲位, 前腕内位。肩甲骨前傾を含める。肩甲(臼蓋)上腕関節が水平外転および内転しないよう注意すること。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009), 日整会・日本リハ医学会(1995)
別法2	肩	内旋(第3肢位)	shj-IR-02	両側の胸鎖関節を結ぶ線と平行な線	尺骨(肘頭と尺骨茎状突起)	肘頭	◎	-	-	○	○	前額面	肩屈曲90°肘90°屈曲位, 前腕内位。	
別法	肩	水平外転	shj-HAB-01	両肩鎖関節を結んだ線の投影線	上腕骨長軸	軸の交点	◎	-	○	○	-	水平面	背臥位で上腕骨より遠位をベッドの端から出して測定。肩外転90°, 内外旋中間位, 肘軽度屈曲。体幹回旋を出来るだけ抑制する。肩甲骨の動きを含む角度。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), 日整会・日本リハ医学会(1995)
別法	肩	水平内転	shj-HAD-01	両肩鎖関節を結んだ線の投影線	上腕骨長軸	軸の交点	◎	-	-	○	-	水平面	背臥位で測定。肩外転90°, 内外旋中間位, 肘軽度屈曲。体幹回旋を出来るだけ抑制する。肩甲骨の動きを含む角度。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989), 日整会・日本リハ医学会(1995)
別法	肘	屈曲	elb-FLEX-01	上腕骨(肩峰~上腕骨外側上顆)	橈骨(上腕骨外側上顆~橈骨茎状突起)	軸の交点	◎	○	-	○	○	矢状面	前腕外位, 外側から計測。	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), Delbarre(2008), Norkin&White(2009), 日整会・日本リハ医学会(1995)

	関節・部位	運動	記号	基本軸(基準)	移動軸(測定)	軸心	背臥位	側臥位	腹臥位	座位	立位	測定面	注意点	参照
別法	肘	伸展	elb-EXT-01	上腕骨(肩峰~上腕骨外側上顆)	橈骨(上腕骨外側上顆~橈骨茎状突起)	軸の交点	◎	○	-	○	○	矢状面	前腕回外位, 外側から計測.	JPTA評価委員会試案(1981), Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), Delbarre(2008), Norkin&White(2009), 日整会・日本リハ医学会(1995)
別法	前腕	回外	ru-SUP-01	上腕骨に平行	前腕部遠位掌側面	軸の交点	○	-	-	◎	-	前額面	肩外転内転屈曲伸展0°, 肘屈曲90°.	JPTA評価委員会試案(1981), Norkin&White(2009)
別法	前腕	回内	ru-PRO-01	上腕骨に平行	前腕部遠位背側面	軸の交点	○	-	-	◎	-	前額面	肩外転内転屈曲伸展0°, 肘屈曲90°.	JPTA評価委員会試案(1981), Norkin&White(2009)
別法	手根中手関節	橈側外転	cm-RABD-01	第2中手骨	第1中手骨	軸の交点	○	○	○	◎	○	水平面	肘軽度屈曲, 前腕回内位, 手中間位. 手掌と直角な面での運動.	Gerhardt&Rippstein(1990), 日整会・日本リハ医学会(1995)
別法	手根中手関節	尺側内転	cm-UADD-01	第2中手骨	第1中手骨	軸の交点	○	○	○	◎	○	水平面	肘軽度屈曲, 前腕回内位, 手中間位. 手掌と直角な面での運動.	Gerhardt&Rippstein(1990), 日整会・日本リハ医学会(1995)
別法	手根中手関節	掌側外転	cm-PABD-01	第2中手骨	第1中手骨	軸の交点	○	○	○	◎	○	水平面	肘軽度屈曲, 前腕中間位, 手中間位.	Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009)
別法	手根中手関節	掌側内転	cm-PADD-01	第2中手骨	第1中手骨	軸の交点	○	○	○	◎	○	水平面	肘軽度屈曲, 前腕中間位, 手中間位.	Clarkson&Gilewich(1989), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009)
試案	中手指節関節(母指)	外転	tmp-ABD-01	第1中手骨	第1基節骨	軸の交点	○	○	○	◎	○	-	MPの内外転がある状態の時のみ計測. 肘軽度屈曲, 前腕中間位でテーブル上に置く. 手関節, 手指は解剖学的肢位. MCPとIP関節は伸展0°にして開始.	Gerhardt&Rippstein(1990)
試案	中手指節関節(母指)	内転	tmp-ADD-01	第1中手骨	第1基節骨	軸の交点	○	○	○	◎	○	-	MPの内外転がある状態の時のみ計測. 肘軽度屈曲, 前腕中間位でテーブル上に置く. 手関節, 手指は解剖学的肢位. MCPとIP関節は伸展0°にして開始.	Gerhardt&Rippstein(1990)
試案	指節間関節(母指)	外転	tip-ABD-01	第1基節骨	第1末節骨	軸の交点	○	○	○	◎	○	-	IPの内外転がある状態の時のみ計測. 肘軽度屈曲, 前腕中間位でテーブル上に置く. 手関節, 手指は解剖学的肢位. MPとIP関節は伸展0°にして基節骨を固定する.	Gerhardt&Rippstein(1990)
試案	指節間関節(母指)	内転	tip-ADD-01	第1基節骨	第1末節骨	軸の交点	○	○	○	◎	○	-	IPの内外転がある状態の時のみ計測. 肘軽度屈曲, 前腕中間位でテーブル上に置く. 手関節, 手指は解剖学的肢位. MPとIP関節は伸展0°にする.	Gerhardt&Rippstein(1990)
別法	中手指節関節(2~5指)	外転	dmp-ABD-01	各指の中手骨長軸	各指の基節骨長軸	MCP関節背側面	○	○	○	◎	○	-	前腕回内位, 手関節中間位. 手関節を固定する.	Clarkson&Gilewich(1989), Norkin&White(2009)
別法	中手指節関節(2~5指)	内転	dmp-ADD-01	各指の中手骨長軸	各指の基節骨長軸	MCP関節背側面	○	○	○	◎	○	-	前腕回内位, 手関節中間位. 手関節を固定する.	Clarkson&Gilewich(1989), Norkin&White(2009)
別法	股関節	屈曲(角度)	hip-FLEX-01	肩峰外側縁と大転子を結ぶ線	大転子と大腿骨外側上顆を結ぶ線	軸の交点	◎	○	-	-	-	矢状面	検査側の膝は屈曲位とする. 検者は自身の前腕で検査側を保持し, 基本軸・移動軸を確実に合わせる. 反対側の下肢拳上などの代償運動に注意する.	JPTA評価委員会試案(1983), JPTAモニター調査結果(1986), JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986), 日整会・日本リハ医学会(1995), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009)
別法1	股関節	SLR(角度)	hip-SLR-01	肩峰外側縁と大転子を結ぶ線	大転子と大腿骨外側上顆を結ぶ線	軸の交点	◎	○	-	-	-	矢状面	検査側の膝は伸展位とする. 検者は検査側の下肢と移動軸を一侧の上肢で同時に保持する. 骨盤の回旋, 反対側の下肢拳上などの代償運動に注意する.	JPTA評価委員会試案(1983), JPTAモニター調査結果(1986), JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986), 日整会・日本リハ医学会(1995), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009)
別法2	股関節	SLR(角度)	hip-SLR-02	肩峰外側縁と大転子を結ぶ線	大転子と大腿骨外側上顆を結ぶ線	軸の交点	◎	○	-	-	-	矢状面	2人で測定する. 検査側の膝は伸展位とする. 骨盤の回旋, 反対側の下肢拳上などの代償運動に注意する.	JPTA評価委員会試案(1983), JPTAモニター調査結果(1986), JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986), 日整会・日本リハ医学会(1995), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2010)
別法	股関節	伸展(角度)	hip-EXT-01	肩峰外側縁と大転子を結ぶ線	大転子と大腿骨外側上顆を結ぶ線	軸の交点	-	○	◎	-	-	矢状面	骨盤は回旋のみ固定する. 検査側の下肢は, 検者の大腿部またはバスタオルなどを用いて伸展位に保持する.	JPTA評価委員会試案(1983), JPTAモニター調査結果(1986), JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986), 日整会・日本リハ医学会(1995), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009)
別法	股関節	外転(角度)	hip-ABD-01	左右の上前腸骨棘を結ぶ線	膝蓋骨中央を通る大腿部	軸の交点	◎	-	-	-	-	前額面	下肢内外旋中間位(検者の膝で代償を防ぐ). 角度は基本軸の垂直線からの変位とする.	JPTA評価委員会試案(1983), JPTAモニター調査結果(1986), JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986), 日整会・日本リハ医学会(1995), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009)
別法	股関節	内転(角度)	hip-ADD-01	左右の上前腸骨棘を結ぶ線	膝蓋骨中央を通る大腿部	軸の交点	◎	-	-	-	-	前額面	下肢内外旋中間位(検者の膝で代償を防ぐ). 反対側を屈曲し, その下を通す. 角度は基本軸の垂直線からの変位とする.	JPTA評価委員会試案(1983), JPTAモニター調査結果(1986), JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986), 日整会・日本リハ医学会(1995), Gerhardt&Rippstein(1990), Norkin&White(2009)

	関節・部位	運動	記号	基本軸(基準)	移動軸(測定)	軸心	背臥位	側臥位	腹臥位	座位	立位	測定面	注意点	参照
別法	股関節	外旋(角度)	hip-ER-01	左右の上前腸骨棘を結ぶ線(投影線)	膝蓋骨中央より足関節内外果中央を結ぶ線	軸の交点	◎	-	-	○	-	前額面	股関節・膝関節90°屈曲位で測定する(検者の大腿で保持する)。骨盤の回旋などの代償運動に注意する。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	JPTA評価委員会試案(1983)、JPTAモニター調査結果(1986)、JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)
別法	股関節	内旋(角度)	hip-IR-01	左右の上前腸骨棘を結ぶ線(投影線)	膝蓋骨中央より足関節内外果中央を結ぶ線	軸の交点	◎	-	-	○	-	前額面	股関節・膝関節90°屈曲位で測定する(検者の大腿で保持する)。骨盤の回旋などの代償運動に注意する。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	JPTA評価委員会試案(1983)、JPTAモニター調査結果(1986)、JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)
別法	股関節	水平外転	hip-HF-01	両ASISを結ぶ線の平行線	大腿部	軸の交点	◎	-	-	○	-	水平面	股関節90°屈曲位で測定する。屈曲可動域の制限がある場合には45°屈曲位で測定する。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	Gerhardt&Rippstein(1990)、AAOS(1963)
別法	股関節	水平内転	hip-HE-01	両ASISを結ぶ線の平行線	大腿部	軸の交点	◎	-	-	○	-	水平面	股関節90°屈曲位で測定する。屈曲可動域の制限がある場合には45°屈曲位で測定する。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	Gerhardt&Rippstein(1990)、AAOS(1963)
別法	膝関節	屈曲	kne-FLEX-01	大転子と大腿骨外側上顆を結ぶ線	腓骨(腓骨頭と外果を結ぶ線)	軸の交点	◎	-	○	-	-	矢状面	屈曲は股関節を屈曲位で行う。背臥位の場合、股関節の角度を併記する。	JPTA評価委員会試案(1983)、Norkin&White(2009)、Gerhardt&Rippstein(1990)、AAOS(1963)
別法	膝関節	伸展	kne-EXT-01	大転子と大腿骨外側上顆を結ぶ線	腓骨(腓骨頭と外果を結ぶ線)	軸の交点	◎	-	○	-	-	矢状面		JPTA評価委員会試案(1981)、Norkin&White(2009)、Gerhardt&Rippstein(1990)、AAOS(1963)
別法	足関節	屈曲(底屈)	ank-FLEX-01	腓骨(腓骨頭と外果を結ぶ線)	第5中足骨骨頭と踵骨骨底外側縁を結ぶ線	軸の交点	◎	-	-	○	-	矢状面	膝関節は屈曲位とする。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	Norkin&White(2009)、Gerhardt&Rippstein(1990)、AAOS(1963)、AMA(1984)
別法	足関節	伸展(背屈)	ank-EXT-01	腓骨(腓骨頭と外果を結ぶ線)	第5中足骨骨頭と踵骨骨底外側縁を結ぶ線	軸の交点	◎	-	○	○	○	矢状面	膝関節は屈曲位とする。立位は荷重位で行う。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	Norkin&White(2009)、Gerhardt&Rippstein(1990)、AAOS(1963)、AMA(1984)
別法	足部	外がえし	foo-EV-01	下腿軸	踵骨後面の中央線	軸の交点	-	-	◎	-	-	前額面	距骨下関節の外がえし(後足部)。足関節は中間位。	JPTA評価委員会試案(1983)、Norkin&White(2009)、Gerhardt&Rippstein(1990)
別法	足部	内がえし	foo-INV-01	下腿軸	踵骨後面の中央線	軸の交点	-	-	◎	-	-	前額面	距骨下関節の内がえし(後足部)。足関節は中間位。	JPTA評価委員会試案(1983)、Norkin&White(2009)、Gerhardt&Rippstein(1990)
別法	頸部	屈曲(角度)	ces-FLEX-01	中腋窩線	外耳孔と眼窩点を結ぶ線	軸の交点	○	○	-	◎	○	矢状面	頸椎側屈・回旋運動に注意する。肩甲骨・胸郭を動かさないようにする。基本軸の中腋窩線は、体軸中心線とする。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)
別法	頸部	伸展(角度)	ces-EXT-01	中腋窩線	外耳孔と眼窩点を結ぶ線	軸の交点	-	○	-	◎	○	矢状面	頸椎側屈・回旋運動に注意する。肩甲骨・胸郭を動かさないようにする。基本軸の中腋窩線は、体軸中心線とする。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)
別法	頸部	回旋(角度)	ces-ROT-01	頭部中央と肩峰を結ぶ線	頭部中央と鼻の先端を結ぶ線	軸の交点	○	-	-	◎	○	水平面	頸椎屈曲・伸展・側屈運動に注意する。肩甲骨・胸郭を動かさないようにする。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)
別法	頸部	側屈(角度)	ces-LFLEX-01	C7棘突起と胸椎棘突起を通る線	C7棘突起と外後頭隆起を結ぶ線	軸の交点	-	○	○	◎	○	前額面	頸椎屈曲・伸展・回旋運動に注意する。肩甲骨・胸郭を動かさないようにする。	JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)
別法	胸腰部	屈曲(距離)	tls-FLEX-01	安静位(C7棘突起と両PSIS中点間の距離)	屈曲位(C7棘突起と両PSIS中点間の距離)	-	-	-	-	○	◎	矢状面	安静位は、「背を伸ばして下さい」との指示に対して修正した肢位とする。C7の棘突起と両PSISを結んだ中点に印をつける。安静位と屈曲位における2点の距離を各々計測する。可動性は、「屈曲位の計測値-安静位の計測値」で算出する。	JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)

	関節・部位	運動	記号	基本軸(基準)	移動軸(測定)	軸心	背臥位	側臥位	腹臥位	座位	立位	測定面	注意点	参照
別法	胸腰部	伸展(距離)	ds-EXT-01	安静位(C7棘突起と両PSIS 中点間の距離)	伸展位(C7棘突起と両 PSIS中点の距離)	-	-	-	-	○	◎	矢状面	安静位は、「背を伸ばして下さい」との指示に対して修正した肢位とする。C7の棘突起と両PSISを結んだ中点に印をつける。安静位と伸展位における2点の最短距離を各々計測する(メジャーは浮いても構わない)。可動性は、「安静位の計測値-伸展位の計測値」で算出する。伸展位では、頸を伸展しないように注意する。	JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)
別法	胸腰部	回旋(角度)	ds-ROT-01	両膝尖端を結ぶ線	両肩峰を結ぶ線	-	-	-	-	◎	○	水平面	胸腰部の屈曲・伸展・側屈・肩甲帯の動きに注意する。骨盤を動かさない。	JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)
別法	胸腰部	側屈(角度)	ds-LFLEX-01	両ASISを結ぶ線の平行線	両胸鎖関節を結ぶ線	軸の交点	-	-	○	○	◎	前額面	胸腰部の屈曲・回旋などの代償運動に注意する。角度は基本軸の垂直線からの変位とする。	JPTA評価検討委員会のあゆみ(1986)、日整会・日本リハ医学会(1995)、Gerhardt&Rippstein(1990)、Norkin&White(2009)